

環境経営レポート

(令和 4年 9月 1日～令和 5年 8月31日)



白龍神社と日本庭園(北港リサイクルセンター)

令和5年11月14日作成

 株式会社 昇 和

<https://www.showa.company/>



目	次	ページ
1	当社の理念	3
2	経営課題とチャンス	4
3	SDGsへの当社の取り組み	5-6
4	環境経営方針	7
5	活動状況グラフ	8
	(1) 全社の売上高推移	8
	(2) 産廃処分量の推移	8
	(3) 電力使用量の推移	9
	(4) 燃料使用量の推移	9
	(5) ガソリン使用量の推移	10
	(6) 収集運搬車両の燃費推移	10
6	取組の対象組織・活動	11
	1) 組織の概要	
	(1) 事務所名および代表者名	(2) 所在地
	(3) 環境管理責任者及び担当者	(4) 事業の内容
	(5) 資本金	(6) 売上高
	(7) 組織図	(8) 法人設立年月日
	2) 許可・登録の内容	12
	(1) 産廃業	(2) 建設業
	3) 事業の規模・施設等の状況	12
	(1) 従業員数	12
	(2) 事業所敷地面積	(3) 車両
	(4) 主要設備	13-14
	(5) 処理工程図	15
	4) 処理実績	16-18
	5) 廃棄物処理料金	18
	6) 解体工事实績	19
7	環境目標とその実績	20
	7-1 環境目標	
	【全社】	20
	【北港と西向島リサイクルセンターの合計値】	21
	【解体業工事関係】	21-22
	7-2 環境活動の実績と評価	23
	【全社】	23
	【北港と西向島リサイクルセンターの合計値】	24
	【解体業工事関係】	25
8	主な環境活動計画の内容と取組結果の評価	26
9	環境・安全への取組み	27
10	主な環境関連法令への違反、訴訟等の有無	28
11	有資格一覧	29
12	総括（代表者による全体の見直し・指示）	30
13	次年度での取り組み	31-32

1. 当社の理念



魂の絆 -Bond of a soul-

私たち「昇和」が一番大切にしていること、それは“絆”。

お客様との絆、パートナーとの絆、社会との絆、そして、なにより大事にしているのが、社員ならびに社員同士の絆です。

社長を筆頭に、全員が同じ方向を向き、同じ目標を持って進むためにも、それぞれが強固に結びつき、魂と魂の絆を深めています。

そんな“魂の絆”を結ぶためには、互いの信頼関係を何よりも大事にして、何時いかなるときも決して裏切らず、いかなる仕事に対しても常に真摯な態度で臨み、全員一丸となって仕事に取り組んでまいります。

信頼とは、一朝一夕に築き上げることはできません。ほんの一瞬で崩れ落ちていく怖さとその危うさを知っているからこそ、私たちは一度結んだ“絆”を緩めないため、皆様との信頼関係を保ち続けることに全力を尽くしています。そうした盤石の信頼関係の上に結ばれた絆こそ、心の奥底で結びついた、まさに“魂の絆”といえるのではないのでしょうか。

何よりも強く揺るぎのない「魂の絆 —Bond of a soul—」で結ばれた私たち「チーム昇和」は、古くからの慣習に縛られたこの業界に新たな革新を起こすために、誇りと自信を持って只ひたすらに邁進してまいります。

2. 経営における課題とチャンス

当社の主力事業である解体工事業は、少子高齢化が進んでいますが、一方で地球温暖化の影響と考えられる集中豪雨、大型台風など、自然災害への対応、気候変動に対応したインフラの整備のニーズの高まりで、ますます受注が増加していく見通しです。

また、SDGsの課題解決を重要な経営課題と捉え、事業活動・企業活動を通じて、国際社会が追求する社会課題の解決に貢献することで企業価値の向上と持続的な社会の実現に取り組みます。

そのような中で、環境と安全につねに最大限の配慮を行うことこそが、企業価値を高めるということを肝に銘じているところです。

	課 題	チ ャ ン ス
外 部 要 因	東南海大地震等大規模災害リスクへの対応 人口減少に伴うインフラ投資の減少 発注元の要求内容（ニーズ）のレベルアップ 電力・燃料費の上昇 解体業・廃棄物処理関連の法令改正	BCP計画の作成と周知 脱炭素社会に向けたインフラ整備事業の増加 25年万博に向けたインフラ投資の増加 社員教育の充実・設備の老朽更新 省エネ設備投資・低燃費車両の導入の積極推進 業界団体あがての解体業者のイメージアップ推進
内 部 要 因	会社の基盤構築・プロジェクトチーム立上げ 人材育成 人件費の上昇 新型コロナへの対応 技術力の維持・向上 労働災害発生 工事現場・収集運搬車両の事故発生 社員の高齢化	昇和ビジョン（将来目指すもの） 社内体制の構築・業務マニュアルの作成 戦える組織づくり 長期的視野（今後5年）に基づく人材確保 高業績の維持で優秀な人材確保 実績主義の賃金体系 迅速な事前対応や対策の実施 社内講習・外部講習・公的資格取得の奨励 定期的な安全教育・過去や他社の事例研究 工事現場の状況確認を毎日実施 エコドライブの定期教育実施 本人の意欲と健康を重視した雇用

SDGsへの取り組み内容は
次ページにまとめました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



3. 株式会社 昇和 SDGs への取り組み



SDGs「Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標」は、2015年に国連で採択された、豊かで活力ある未来をつくるため17の目標・169のターゲットを定め、2030年までの達成を目指す世界規模の取り組みです。

当社はSDGsの課題解決を重要な経営課題と捉え、事業活動・企業活動を通じて、国際社会が追求する社会課題の解決に貢献することで企業価値の向上と持続的な社会の実現に取り組みます。特に次の3項目（SDG12・SDG13・SDG15）にフォーカスし、そこから社会全体の課題解決に向け、貢献してまいります。



・**廃棄物の削減**
100%リサイクル

- ・ 弊社のリサイクルセンターではコンクリートがれきは破碎・異物の除去後、高品質な再生砕石となり道路の路盤材やメガソーラーの基礎等にリサイクルされます。
- ・ 木くずは破碎・異物の除去後、製紙原料や燃料チップにリサイクルされます。
- ・ ALCは破碎・異物の除去後、土壌改良材にリサイクルされます。
- ・ 建設発生土（残土）は粒度の調整・異物の除去後、建築現場での埋戻し材や採石場開発跡地等の緑化事業にリサイクルされます。
- ・ 解体工事現場においては徹底した分別解体・適切な処理を行い、マニフェストにて産業廃棄物の管理をしています。



・**CO2排出削減**
の取り組み

- ・ 弊社10tダンプにおいてはランゲンドルフ社製のベッセルを導入し、空車時は1.5tの総重量の低減により燃費効率の向上、積載荷重は通常の8.4tから9.9tへと1.5t増え、運行回数を低減する事によりCO2排出削減に貢献しています。



・**緑化事業への**
取り組み

- ・ 弊社、北港リサイクルセンターでは建設発生土（残土）を受け入れ、粒度の調整後、異物の除去を重機だけでなく人力でも行い、品質の良い土だけを弊社岸壁より環境負荷の少ない海運を主体とし、各方面の採石場跡地等の緑化事業に携わっています。



・**必要な資格取得**
の推進

- ・ 解体工事の工事品質を上げるためには社員が必要な教育を受け、理解し、自信をもって工事を監督、遂行することが大切です。このために、協力会社も含めて、社員教育を充実するとともに、幅広い資格の取得を奨励します。
- ・ 社員表彰および協力会社表彰を環境安全大会の場で行います。



・**性別にこだわらない**
処遇

- ・ 男女の区別なく本人の実力に応じた待遇を行います。
- ・ 男女の区別なく本人の実力に応じて、適切な業務と役割を与えます。



・運搬車両の燃費向上

- ・ 営業用の車両はすべてハイブリッド車にしています。今後はEV社の導入を進めていきます。
- ・ 構内専用の重機はGTL燃料を使用します。
- ・ 運搬車両や建設用重機は燃費性能の良い新車への入れ替えを適時行います。



・働きがいのある職場

- ・ 会社の業績に応じた処遇を行い、社員のやる気を引き上げています。
- ・ 社員のだれもが「昇和の代表者」であることを常に意識して業務を行います。
- ・ 定年は特に定めず働ける間はその能力に応じて力を発揮してもらいます。



・公平な人事評価

- ・ 当社で働きたい人は、国籍・性別を問わず、本人の能力に応じて採用します。
- ・ 国籍・性別を問わず、本人の貢献度に応じた処遇を行います。



・都市の再開発事業への貢献

- ・ 解体工事を環境安全を確保しながら適切に行います。
- ・ 同業他社や建設会社との技術交流を通じて、技術レベルの向上を図ります。



・緑化事業は海洋資源も守ります

- ・ 緑化事業への取り組みは海の豊かさを守ることにもつながっています。



・パートナーシップを大切にします

- ・ お客様との絆、パートナーとの絆、社会との絆、そして、社員ならびに社員同士の絆を大切にして、これらの目標を達成してまいります。

4. 環境経営方針

私たちは、美しい地球環境を守り次世代へ伝えていくことの大切さを常に考え行動します。

私たちは、全社一丸となって、解体工事から発生する建設廃棄物の収集運搬・処分および再資源化業務を通じて、建設廃棄物のリサイクル率向上・環境負荷低減を進めることによって、循環型社会形成に貢献します。

そして、環境経営の継続的改善を進めてまいります。

1. 企業の社会的責任を果たすため、企業倫理を守り、法令および関係先からの要請を遵守し、社会に貢献していきます。
2. 地球環境の維持・向上に寄与するため、事業活動の環境目標および行動計画として下記の重点項目を設定します。
 - ① 解体工事など建設工事に伴って発生する建設廃棄物および自社で発生し又は受託した産業廃棄物の分別・選別とゼロエミッションの推進
 - ② 災害時の廃棄物処理の率先推進
 - ③ リサイクル施設の電力原単位低減と建設機械および運搬車両等の燃費向上による二酸化炭素排出原単位の低減
 - ④ 騒音、振動および粉塵発生の低減による環境に配慮した作業の促進
 - ⑤ 雨水の有効利用および効果的な散水実施を通じた用水量の削減による総排水量の削減
 - ⑥ 事務用品を中心としたグリーン購入の推進
 - ⑦ 本業において顧客等の環境協力を得て、再生品の品質向上を進めた販売強化
3. 環境コミュニケーションを通じて、環境活動の状況を内外に伝達します。
4. 全従業員に、この環境経営方針を周知します。

制定日 平成25年 3月29日

改訂日 令和 5年 4月 1日

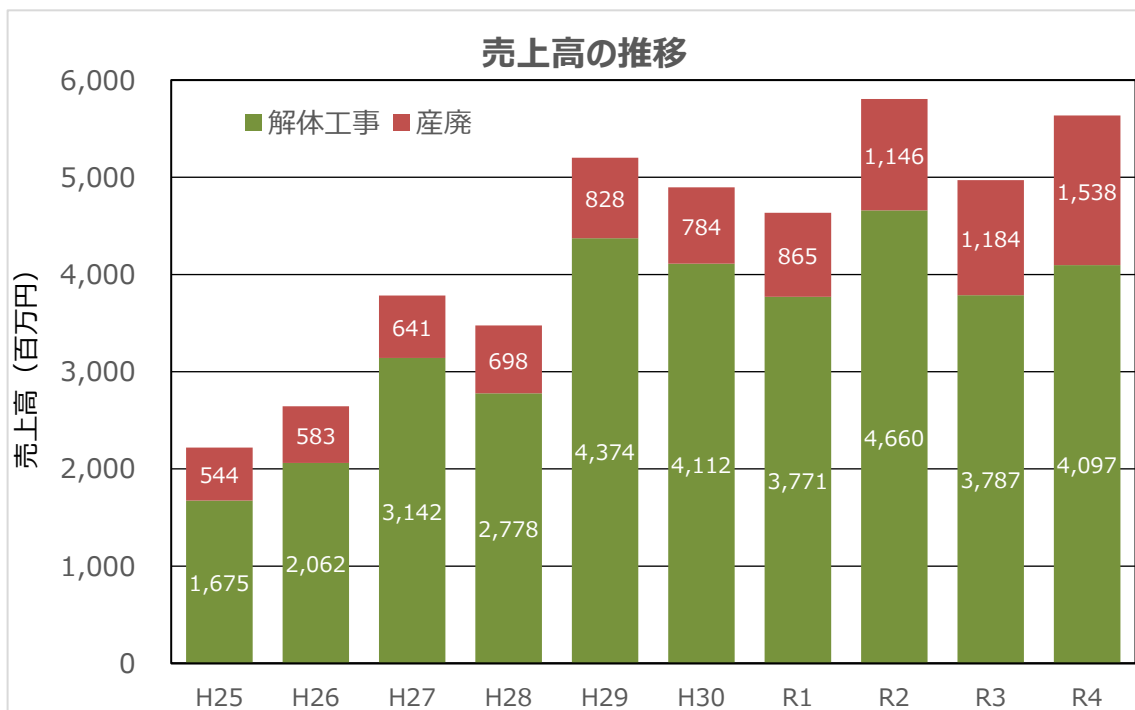
株式会社 昇 和
代表取締役 佐藤 昇

署名 佐藤 昇

5. 活動状況のグラフ

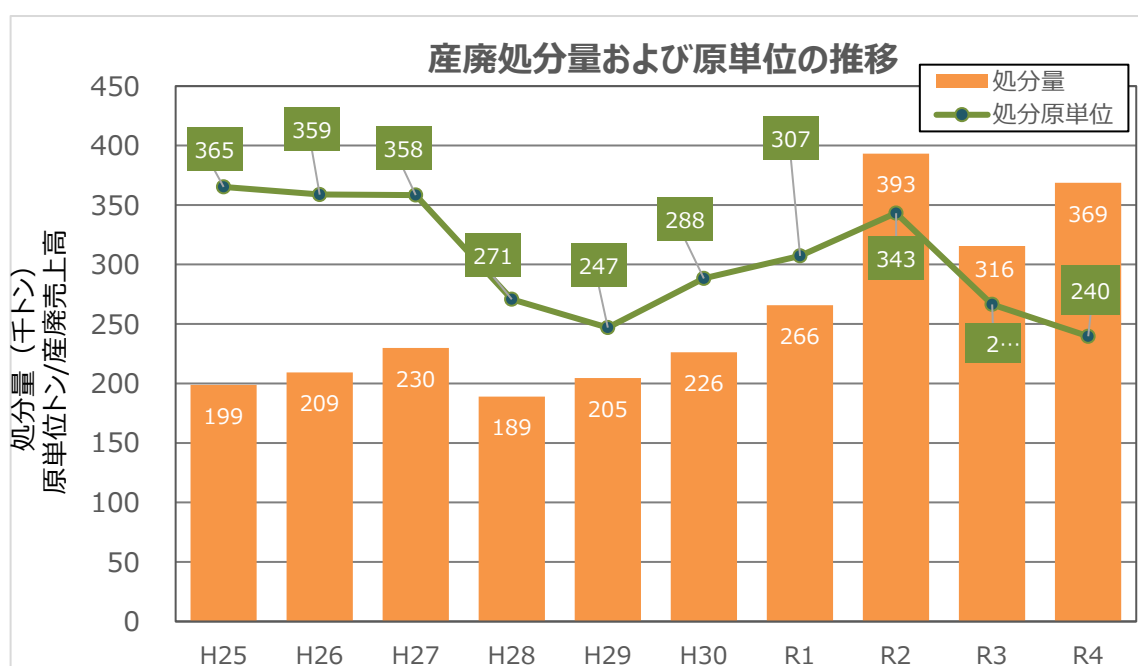
(1) 全社の売上高推移

令和4年度の売上高は、産廃部門は過去最大となり、解体工事部門も、前年比3億円増加したため、全社売上高は令和3年度の50億円弱から56億円強となり、令和2年度の58億円に次ぐ2番目の売上高となりました。



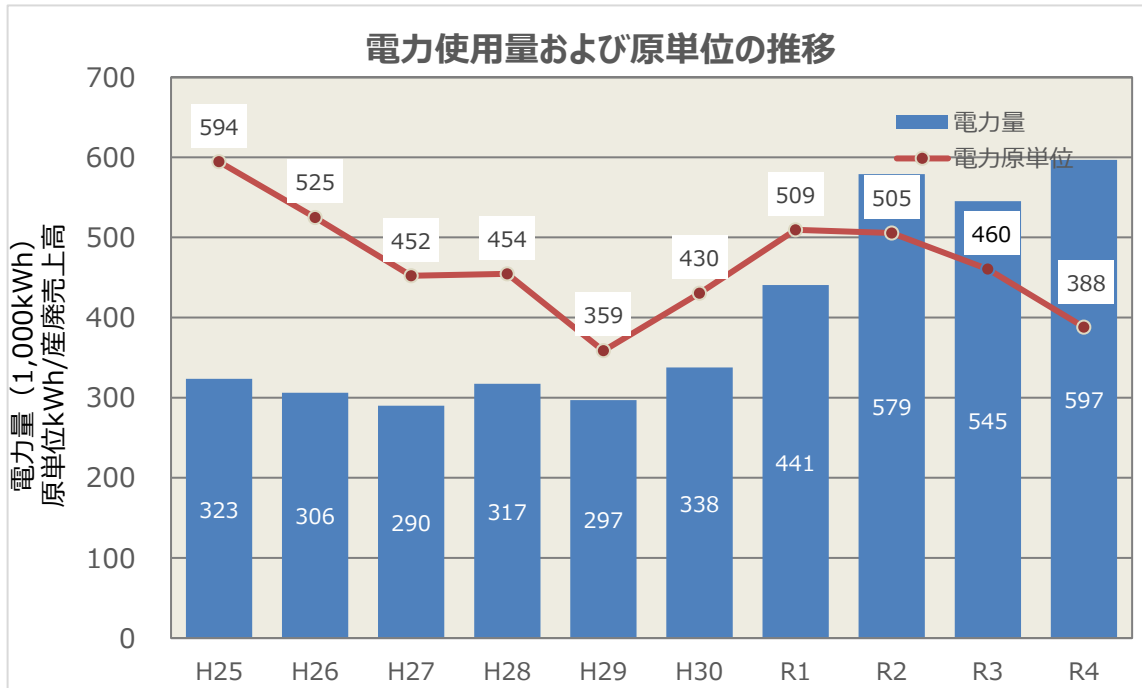
(2) 産廃処分量の推移

解体工事から排出されるコンクリートがらを中心に処理を行っています。当期の処分量はコンクリートがらやALCの処分量が増加しが前期比+17%となったこと、木くずが同+31%となったこと、残土処分量も同+80%となったことから売上が30%増加し、原単位が大きく改善いたしました。



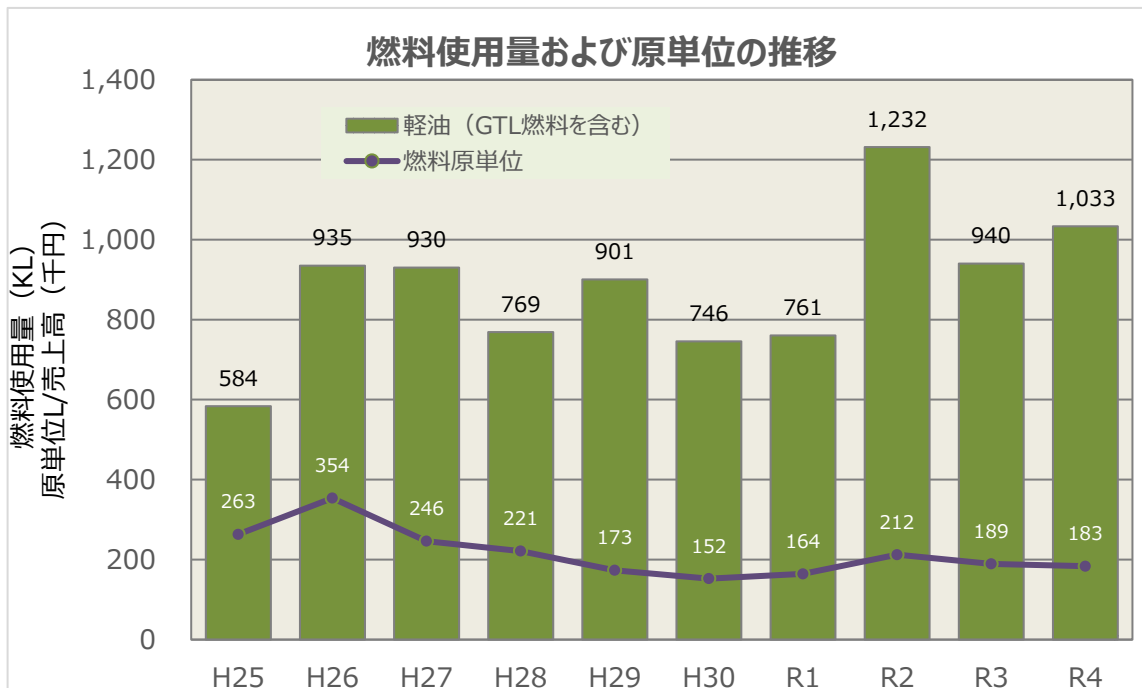
(3) 電力使用量の推移

令和4年度の電力使用量は、コンクリートがらおよび木くずのの処分量が増加したため増加しましたが、産廃関係の売上高が増加したため、原単位が改善しました。



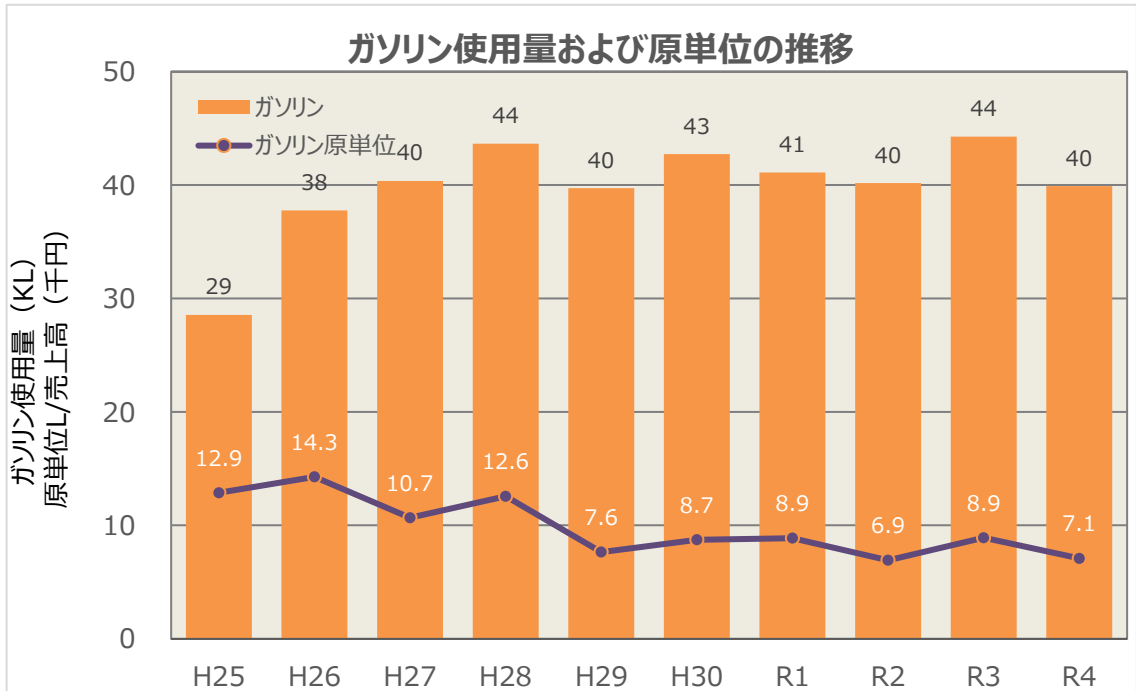
(4) 軽油およびGTL燃料使用量の推移

燃料の使用量は、解体工事現場の立地条件に大きく左右されるため、変動が大きくなっています。今期は、大阪市住吉区や尼崎市など大型工事があり解体工事関係の軽油使用量が5割近く増加しましたが、現場がリサイクルセンターに比較的近かったため、収集運搬車関係の軽油が前年比20%減となり、燃料使用量は10%の増加にとどまりました。この結果、燃料の原単位は2%の減にとどまりました。なお、GTL燃料は天然ガスの高騰、国の補助金の打ち切りの影響で大幅に単価が上昇したため、10月以降は使用していません。



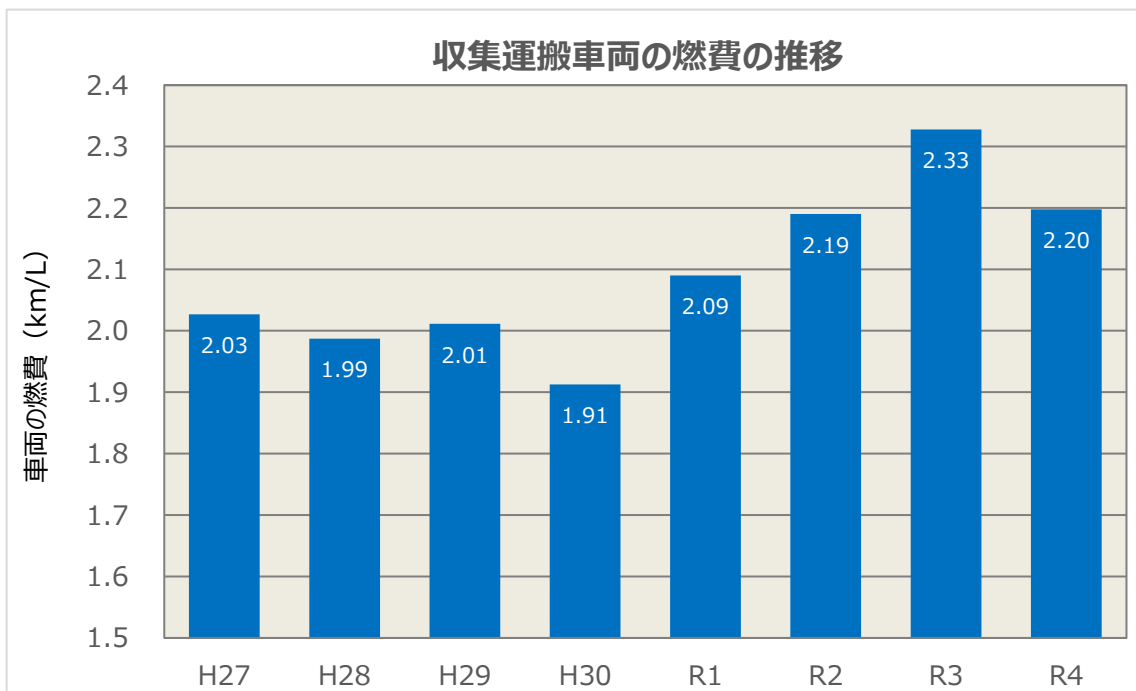
(5) ガソリン使用量の推移

今期は工事件数が増加したことから、工事現場への往復が増加しました結果、ガソリン使用量は1昨年並みとなり、前期の10%減でした。売り上げが増加したため、原単位は前期比20%の改善となりました。



(6) 収集運搬車両の燃費推移

今期は収集運搬車の、走行距離が前期比23%減となりましたため、燃料の使用量は減少しましたが、相対的に燃費が前々期並みの2.20となり、前期比4%の悪化になりました。引き続き省燃費運転技術の向上を図ってまいります。



6. 取組みの対象組織・活動

1) 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者名

株式会社 昇 和
代表取締役 佐 藤 昇

(2) 所在地

本社 : 大阪府大阪市港区田中二丁目1番1号
 東京支店 : 東京都中央区銀座8丁目14番11号
 西向島リサイクルセンター (RC) : 兵庫県尼崎市西向島町111番5
 北港リサイクルセンター (RC) : 大阪府大阪市此花区梅町二丁目4番114号

■ 認証・登録範囲 (場所) : 本社、東京支店、西向島リサイクルセンター、北港リサイクルセンター

(3) 環境管理責任者名・担当者連絡先

■ 環境管理責任者 : 佐藤 佑樹
 ■ 担当者 : 森井 友一
 ■ 連絡先 : TEL 06-6577-5555 FAX 06-6577-5565
 ■ E-mail : tomokazu.morii@showa.company

(4) 事業の内容

1. 解体工事、杭工事、土木工事、建築工事
2. 建設発生土および運搬処分
3. 汚染土掘削・運搬
4. 産業廃棄物中間処理、収集運搬およびリサイクル
5. 再生路盤材および木材チップ製造・販売

■ 認証・登録範囲 : 全組織・全活動

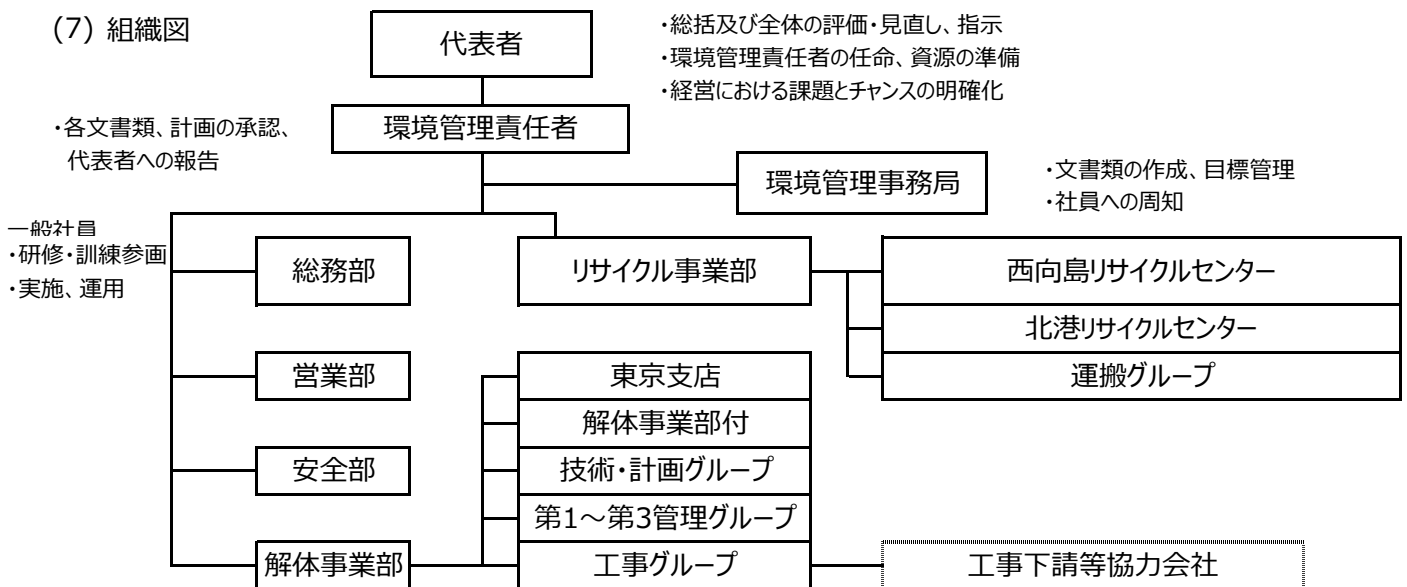
(5) 資本金

8,000万円

(6) 売上高 (令和4年9月～令和5年8月)

5,635 百万円 (うち産業廃棄物部門 1,538 百万円 解体事業部門 4,097 百万円)

(7) 組織図



(8) 法人設立年月日

平成4年3月7日

2) 許可・登録の内容

1. 建設業

管轄	国土交通大臣許可		
	許可番号	許可年月日	有効期限
	(特-3)第26341号	令和3年8月26日	令和8年8月25日
許可業種 (19業種)	土木工事、建築工事、大工工事、左官工事、とび・土工工事、石工事、屋根工事、タイル・レンガ・ブロック工事、鋼構造物工事、鉄筋工事、舗装工事、板金工事、ガラス工事、塗装工事、防水工事、内装仕上工事、熱絶縁工事、建具工事、解体工事		

2. 廃棄物再生事業者登録

管轄	大阪府	登録番号	第518号	許可年月日	令和5年1月19日
事業の内容	がれき類（廃ALCに限る）の再生（破碎・粒度調整による土壌改良剤化）				

3. 産業廃棄物処分業

産業廃棄物処理業														
管轄 官庁 Ⓞ:優良認定	許可番号	許可年月日	有効期限	汚泥	廃プラ類	紙くず	木くず	繊維くず	ゴムくず	金属くず	ガラスくず	鋳さい	がれき類	積替・保管
Ⓞ大阪府	02700161700	令和3年09月30日	令和10年09月29日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	無
Ⓞ兵庫県	02803161700	令和3年10月18日	令和10年10月17日	●	●	○	○	○	○	○	●	○	●	無
Ⓞ京都府	02600161700	令和4年03月08日	令和10年12月13日	◎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	無
Ⓞ奈良県	02900161700	令和3年10月21日	令和10年10月20日	●	●	○	○	○	○	○	●	○	●	無
Ⓞ和歌山県	03000161700	令和3年10月21日	令和10年10月20日	◎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	無
Ⓞ滋賀県	02501161700	令和3年11月22日	令和10年11月21日	◎	●	○	○	○	○	○	●	○	●	無
Ⓞ三重県	02400161700	令和3年12月10日	令和10年11月30日	○	●	○	○	○	○	○	●	○	●	無
Ⓞ岐阜県	02100161700	令和3年11月22日	令和10年11月21日	○	●	○	○	○	○	○	●	○	●	無
Ⓞ岡山県	03300161700	令和3年11月09日	令和10年11月08日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	無
Ⓞ尼崎市	7112-161700	令和3年01月05日	令和8年01月04日	○	●	○	○	○	○	○	●	○	●	無
				●							●		●	有
※●石綿含有産業廃棄物を含む 水銀使用製品産業廃棄物を含む 水銀含有ばいじん等を除く ※○水銀使用製品産業廃棄物を含む 水銀含有ばいじん等を除く ※◎無機性汚泥に限る 水銀含有ばいじん等を除く 尼崎市の積替え・保管品目は、石綿含有産業廃棄物に限る（詳細は3)-(4)に記載）														

処分業	大阪市	6620161700	令和1年12月25日	令和6年12月24日											
		中間処理			破碎										●
					破碎・切断	●	●	●	●	●	●	●			●
	大阪市の許可条件：石綿含有産業廃棄物、水銀使用製品産業廃棄物および水銀含有ばいじん等を除く														
	Ⓞ尼崎市	07123-161700	令和3年9月1日	令和10年8月31日											
					乾燥・破碎・整粒	●							●		●
					破碎		●	●	●	●			●		●
尼崎市の許可条件：石綿含有産業廃棄物を除く															

3) 事業の規模・施設等の状況

(1) 従業員数：93（役員 6名、社員 80名、パート 5名、実習生 2名） R5.8.31現在

(2) 事業所敷地面積

ア. 本社	:	707.6㎡
イ. 東京支店	:	69.3㎡
ウ. 西向島リサイクルセンター	:	9,344.6㎡
エ. 北港リサイクルセンター	:	23,926.9㎡

(3) 車両

ア. 作業車両：

日立 ZX1000K-3(2.8㎡)(ハイリフト)	1台	コベルコ 135SRD(0.45㎡)	1台
日立 ZX480LCK(1.6㎡)	1台	キャタピラー CAT980M(ホイールローダー 5.7㎡)	3台
日立 ZX350LCK(1.2㎡)	1台	キャタピラー CAT972K (ホイールローダー 4.8㎡)	2台
キャタピラー CAT336E(1.2㎡)	1台	日立 ZW310A(ホイールローダー 4.0㎡)	1台
コベルコ SK350D(1.2㎡)	2台	日立 ZW100(ホイールローダー 1.3㎡)	1台
日立 ZX250LCK(0.9㎡)	1台	日立 自走式スクリーン VR512	1台
日立 ZX210K(0.7㎡)	2台	自走式スクリーン CS5X10	1台
コベルコ SK210DLC(0.7㎡)	1台	ユニキャリア FHD25(フォークリフト 2.5t)	3台
コベルコ SK210D(0.7㎡)	3台	トヨタ 8FG15(旋回式フォークリフト 1.5t)	1台
キャタピラー CAT320ERR(0.7㎡)	2台	コマツBR380JG(ガラパゴス)	1台
キャタピラー CAT320E(0.7㎡)	2台	テレストック HF1024	2台
キャタピラー CAT31315GC(0.45㎡)	1台	自走式ホッパーフィーダー(揚土機)	



イ. 営業車両：普通乗用車 27台

ウ. 収集運搬および工事車両の種類・台数：

スカニアR450	1台	UD 4 t アームロール	2台
スカニア R580	1台	UD 4 t ユニック	1台
ランゲドルフ 28 t ダンプトレーラー	1台	いすゞ 4 t ダンプ	1台
重機運搬トレーラー	3台	日野 4 t ロールダンプ	1台
日野 10 t ダンプ (ランゲドルフ)	12台	三菱 2 t ダンプ	1台
UD 10 t ダンプ	2台	三菱 3 t ダンプ	1台
日野 15 t セルフローダー	1台		



スカニアR580 + 重機運搬トレーラー



スカニアR450 + ランゲドルフ28tダンプトレーラー



北港処理センターのトラックスケールを通過する収集運搬車



運搬車両にはLOHAS×SDGsのマークを張り付けています。
 なお、産業廃棄物収集運搬車の表示は荷台に記載しています。

(4) 主要設備

ア. 西向島リサイクルセンター（尼崎市）

- ① 資源化再利用施設（乾燥・破碎・整粒）
- ② 破碎施設

許可番号	施設の種類	設置年月日	産業廃棄物の種類・処理能力	処理方式
912007	木くず又はがれき類の破碎施設	平成10年01月23日	がれき類(*) 2,340t/日 汚泥・ガラスくず等(*) 2,340t/日	破碎・選別・篩い分け
915003	木くず又はがれき類の破碎施設	平成16年03月25日	木くず 27.2t/日 金属くず 15.4t/日 紙くず 23.3t/日	選別・破碎・篩い分け
915004	廃プラスチック類の破碎施設	平成16年03月25日	廃プラスチック類(*) 22.2t/日 ガラスくず(*) 64.8t/日 繊維くず 17.1t/日	選別・破碎
—	汚泥の天日乾燥施設	平成23年08月22日	汚泥(コンクリート残渣に限る) 2.6m ³ /日	天日乾燥



一次破碎機（ジョークラッシャー）



二次破碎機（インパクトクラッシャー）

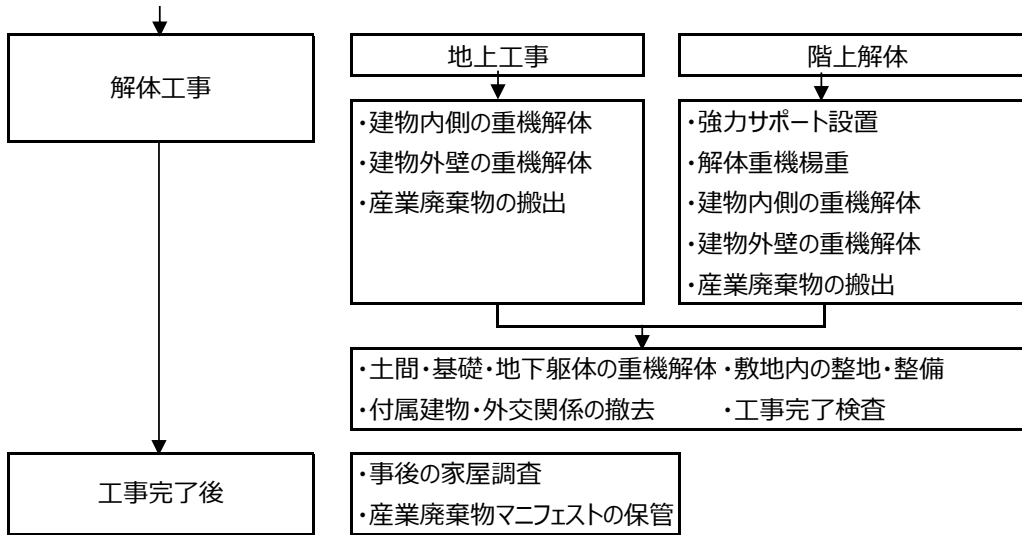
③ 積替え保管施設

許可番号	施設の種類	許可年月日	有効期限	所在地
7112-161700	積替え保管施設	令和3年1月5日	令和8年1月4日	尼崎市西向島町111番地の5
面積	14.8m ²	保管上限	積み上げることができる高さ	
		9,576m ³	屋内保管	
産業廃棄物の種類	①廃プラスチック類、②ガラスくず・コンクリートくず（工作物の除去等を除く。）及び陶磁器くず、③工作物の除去に伴って生じたコンクリートの破片その他これに類する不要物（①、②、③は、石綿含有産業廃棄物に限る）			

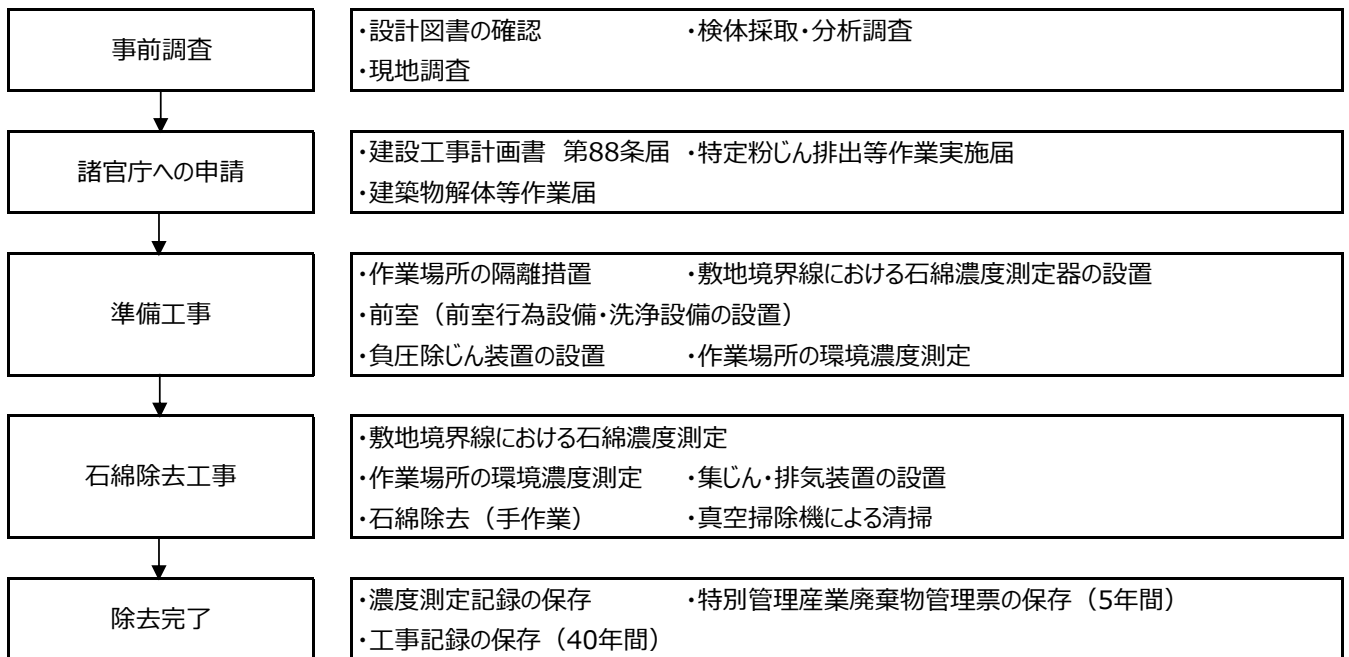
イ. 北港リサイクルセンター（大阪市）

- ① 破碎施設
- ② 資源化再利用施設（乾燥・破碎・整粒）

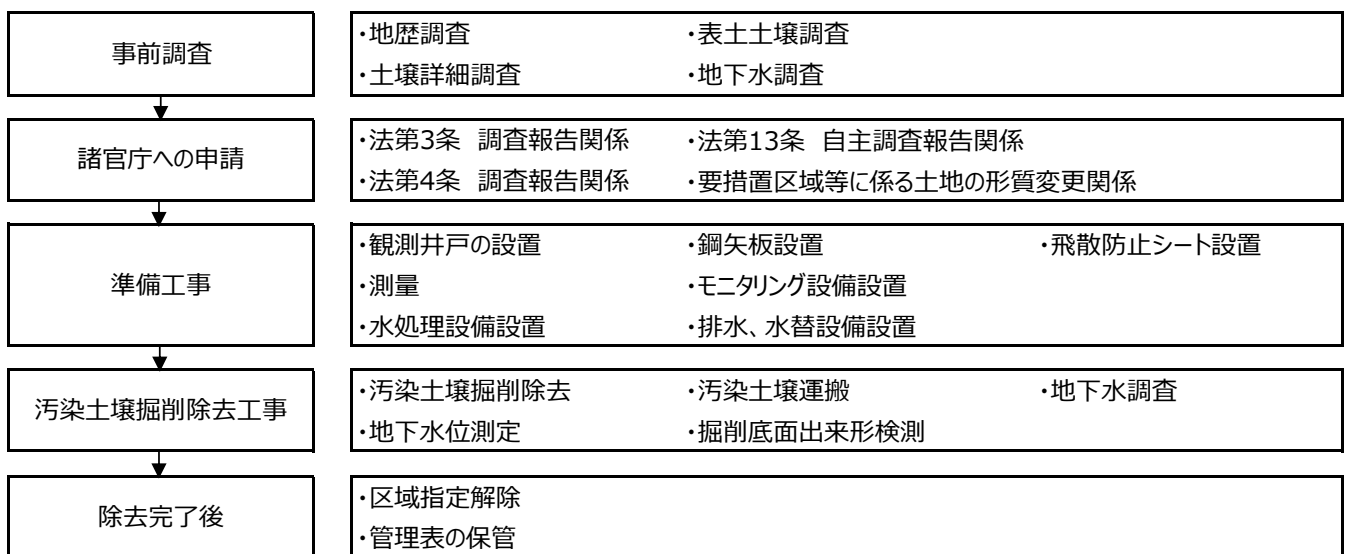
許可番号	施設の種類	設置年月日	産業廃棄物の種類・処理能力	処理方式
第422号	破碎施設	令和1年10月21日	がれき類 1,576t/日 ガラスくず 1,576t/日	破碎
第423号	破碎・切断施設	令和1年10月21日	がれき類(廃ALC) 326.4t/日 金属くず 249.2t/日 ガラスくず 220.5t/日 木くず 108.6t/日 紙くず 59.2t/日 廃プラスチック 69.1t/日 繊維くず 23.6t/日 ゴムくず 102.7t/日	破碎・切断
許可条件	両施設ともに、石綿含有産業廃棄物、水銀使用製品産業廃棄物および水銀含有ばいじん等を除く			



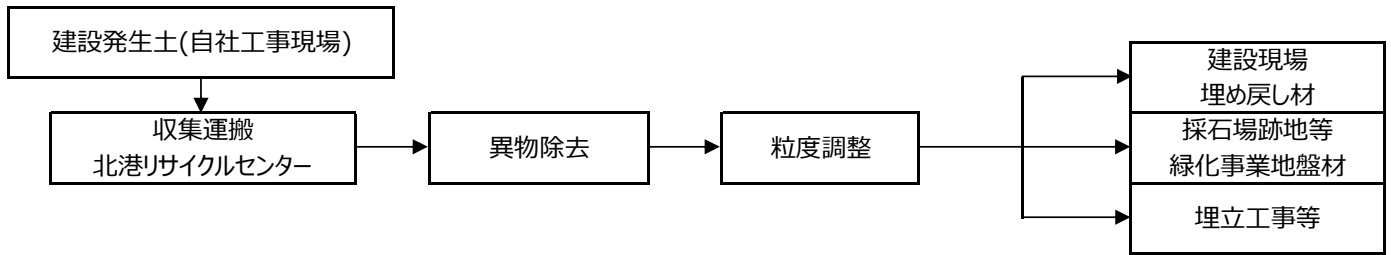
② アスベスト調査・除去工事工程図



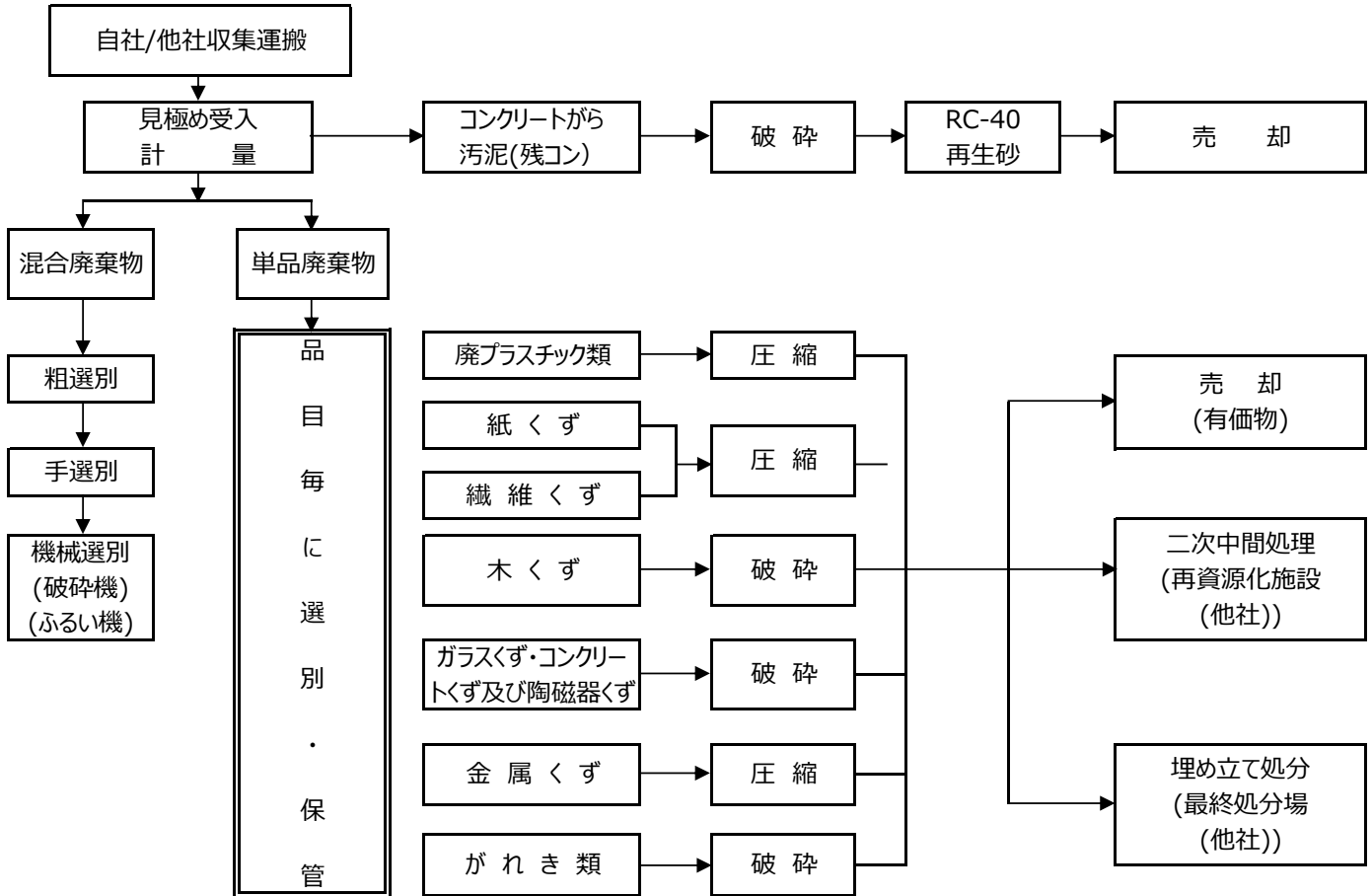
③ 汚染土壌対策工事工程図



④ 建設残土処理工程図



⑤ 産業廃棄物処理工程図



4) 処理実績 (令和4年9月~令和5年8月)

産業廃棄物取扱量 :	収集運搬量 :	327,696 t	(うち 北港RC	179,844 t
			(西向島RC	147,852 t
	中間処理量 :	368,648 t	(うち 北港RC	200,663 t
			(西向島RC	167,986 t
	残土処分量 :	140,777 t	(うち 北港RC	140,777 t

5) 廃棄物処理料金

個別見積書による

6) 解体工事実績 (令和4年9月~令和5年8月)

公共工事： 件数： 21 件 受注高： 2,835 百万円
(年度内工事施工高 1,094 百万円)

民間工事： 件数： 70 件 受注高： 4,879 百万円
(年度内工事施工高 2,524 百万円)



7. 環境経営目標とその実績

7-1 環境経営目標

ユーティリティー使用量は、産業廃棄物関係および自社施工分の解体工事関係売上高を基準とした原単位を基準に設定しています。令和2年度は、令和元年度の実績値と従来の目標値をもとに基準値を見直しました。

【全社】 産業廃棄物処分業、解体業を含む全社分、年間売上高ベースとしています。
 ≪電力に係る二酸化炭素の排出係数は、令和3年度の調整後排出係数は本社および東京支店についてはエフビットコミュニケーションズの0.528kgCO₂/kWh、北港および西向島RCはグリーンパワー大東の0.201kgCO₂/kWhを用いて、概略の年間使用量それぞれ5万kWhおよび60万kWhから算出した係数、0.226kgCO₂/kWhを用いています。≫

項目 単位	R2年度	R3年9月～8月	R4年9月～8月	R4年9月～8月	R5年9月～8月
	(新基準)	実績値	(削減率2%)	実績値	(削減率3%)
二酸化炭素排出量 kg-CO ₂ / 売上高 (百万円)	568.0	423.1	556.7 (▲2%)	511.4 (+8%)	551.0 (▲3%)
電力の使用量 kWh / 売上高 (百万円)	123.0	119.4	120.5 (▲2%)	115.0 (+5%)	119.3 (▲3%)
ガソリンの使用量 ℓ / 売上高 (百万円)	10.00	8.90	9.80 (▲2%)	7.08 (+28%)	9.70 (▲3%)
軽油の使用量 ℓ / 売上高 (百万円)	200.0	145.2	196.0 (▲2%)	181.4 (+7%)	194.0 (▲3%)
GTL燃料(軽油代替燃料) の使用量 ℓ / 売上高 (百万円)	50.0	43.9	49.0 (▲2%)	2.0 (+96%)	48.5 (▲3%)
一般廃棄物排出量 袋 / 売上高 (百万円)	0.100	0.075	0.098 (▲2%)	0.075 (+23%)	0.097 (▲3%)
水使用量 m ³ / 売上高 (百万円)	0.250	0.275	0.248 (▲1%)	0.246 (+1%)	0.248 (▲1%)
再生路盤材リサイクル率 %	99% 以上	100%	99% 以上	100%	99% 以上

※ 環境配慮サービスは「再生路盤材販売量」増加を実施します。

※ 化学物質の取扱はありません。

※ 実績値欄の最下段の%値は目標達成率で目標を達成している場合+表示になっています。(以下同じ)

【北港リサイクルセンターおよび西向島リサイクルセンターの合計量】

«電力に係る二酸化炭素の排出係数は、令和3年度のグリーンパワー大東の調整後排出係数
0.201kgCO₂/kWhを用いています。»

項目 単位	R2年度	R3年9月～8月	R4年9月～8月	R4年9月～8月	R5年9月～8月
	(新基準)	実績値	(削減率2%)	実績値	(削減率3%)
二酸化炭素排出量 kg-CO ₂ / 産廃売上 (百万円)	1,496	1,507	1,466 (▲2%)	1,082 (+26%)	1,451 (▲3%)
電力の使用量 kWh / 産廃売上 (百万円)	500.0	460.4	490.0 (▲2%)	387.9 (+21%)	485.0 (▲3%)
軽油使用量 L / 産廃売上 (百万円)	400.0	321.5	345.0 見直し	336.4 (+2%)	341.6 (▲1%)
GTL燃料使用量 L / 産廃売上 (百万円)	150.0	184.1	255.0 見直し	4.1 (+98%)	252.5 (▲1%)
収集運搬車燃費km/L	2.06	2.33	2.09 見直し	2.20 (+5%)	2.11 (+1.0%)
水使用量 m ³ / 産廃売上 (百万円)	1.250	1.154	1.225 (▲2%)	0.900 (+27%)	1.213 (▲3%)
再生路盤材リサイクル率 %	99% 以上	100%	99% 以上	100%	99% 以上

※ 環境配慮サービスは「再生路盤材販売量」増加を実施します。

※ 化学物質の取扱はありません。

※ 当初軽油とGTL燃料の使用予想比率で原単位を配分しましたが、GTL燃料の使用比率が予想以上に大きいので、配分を見直し、軽油の原単位を345、GTLの原単位を255としました。

※ 収集運搬車の燃費は予想に比してかなり良いので、当初の計画値に対して0.01ポイントアップし、2.09と設定しました。

【解体工事関係】

«電力に係る二酸化炭素の排出係数は、令和3年度のエフビットコミュニケーションズの調整後排出係数
0.528kgCO₂/kWhを用いています。»

項目 単位	R2年度	R3年9月～8月	R4年9月～8月	R4年9月～8月	R5年9月～8月
	(新基準)	実績値	(削減率2%)	実績値	(削減率3%)
二酸化炭素排出量 kg-CO ₂ / 解体工事売上 (百万円)	31.1	24.4	30.5 (▲2%)	27.5 (+10%)	30.2 (▲3%)
電力の使用量 kWh / 解体工事売上 (百万円)	15.0	0.0	14.7 (▲2%)	12.6 (+15%)	14.6 (▲3%)
ガソリン使用量 ℓ / 解体工事売上 (百万円)	10.0	10.5	9.8 (▲2%)	9.0 (+8%)	9.7 (▲3%)

二酸化炭素排出量 kg-CO ₂ / 自社工事売上 (百万円)	774.0	727.8	758.5	1,052.6	750.8
			(▲2%)	(▲39%)	(▲3%)
軽油使用量 ℓ / 自社工事売上 (百万円)	300.0	282.1	294.0	408.0	291.0
			(▲2%)	(▲39%)	(▲3%)
定性的評価 解体時に発生する環境影響 を回避ないし削減するための 手順書に基づいて評価する	活動項目の質的 向上を図る		活動項目の質的 向上を図る		活動項目の質的 向上を図る

※ 解体工事関係の燃料使用量については、受注物件ごとに大きく変動します。

※ 軽油使用量とCO₂排出量が連動していなかったため、令和4年度から修正しています。

今回から電力とガソリンの原単位を記載しています。この数値は解体工事全体の売り上げに比例するため、分母は解体工事売上金額あたりの

※ 数値になっています。また、東京支店の電力使用量を含めています。

一方、軽油使用量は、解体工事のうち自社施工工事に比例するものであるため、分母を自社施工工事金額あたりの数値としています。

7-2 環境経営活動の実績と評価

【全社】《令和4年9月～令和5年8月》

《電力に係る二酸化炭素の排出係数は、令和3年度の調整後排出係数を用いました。本社はエフビットコミュニケーションズの0.528、東京支店は東京電力の0.456、産廃関係は、エフビットコミュニケーションズ(株)《西向島RCのR4年9月度分》の調整後排出係数0.528および新電力会社(株)グリーンパワー大東《西向島RCのR4年10月以降および北港RCの全期間》の調整後排出係数0.201を用いています。》

基準年度欄の数値は、上段：排出量、下段：原単位、実績値欄の数値は、上段：排出量、中段：実績原単位、下段：原単位目標値に対する達成率です。

項目 単位	R3年度実績値	R4年度目標値	R4年度実績値 (達成率%)	評価
全社売上高 (百万円)	4,972		5,635	原単位は売上高百万円あたりの数値になっています。売上高は前年比13%増となりました。
CO ₂ 排出量 kg-CO ₂	2,707,673		2,916,688	○ 目標を達成しました 二酸化炭素排出量は電力使用量、軽油使用量が前期から増加しましたが、目標値に対してはクリアすることができました。
kg-CO ₂ / 売上高	544.6	556.7	517.6	
原単位改善率			7.0%	
電力の使用量 kWh	593,373		648,206	○ 目標を達成しました 全社の消費電力は前期比9%の増加となりました。コンクリートがらの処理量は前期比16%の増加、木くずの処理量は30%の増加となったため増加しました。
kWh / 売上高	119.4	120.5	115.0	
原単位改善率			4.6%	
ガソリンの使用量 L	44,269		39,898	○ 目標を達成しました 工事件数が前期129件から今期91件と、約30%減少したことから、営業活動を活発に行いましたが、ガソリンの使用量は約10%の減少となりました。
L / 売上高	8.90	9.80	7.08	
原単位改善率			27.8%	
軽油の使用量 L	722,090		1,022,339	○ 目標を達成しました 軽油の使用量は、GTL燃料を軽油にしたことや、収集運搬量も前期比30%の増加となったことから、軽油使用量は42%の増加となりました。
L / 売上高	145.2	196.0	181.4	
原単位改善率			7.4%	
GTL燃料の使用量 L	218,050		11,089	○ 目標を達成しました GTL燃料の使用量は、価格高騰のため軽油に切り替えたことから大きく減少しました。
L / 売上高	43.9	49.0	2.0	
原単位改善率			96.0%	
一般廃棄物排出量(袋)	372		424	○ 目標を達成しました 一般ごみの削減を継続して進めています。売り上げ増加したことで相まって、前期比で原単位が減少しました。
袋 / 売上高	0.075	0.098	0.075	
原単位改善率			23.2%	
再生路盤材リサイクル率 %	100%	100%	100%	○ 目標を達成しました 今年度も再生品はすべてリサイクルしています。

※ 燃料油は軽油およびGTL燃料となっています。

※ 達成率は目標数値に対する増減割合を示します。

【北港リサイクルセンターおよび西向島リサイクルセンター合計】

「電力に係る二酸化炭素の排出係数は、令和3年度の調整後排出係数を用いました。目標値にはグリーンパワー大東の0.201を、実績値はエフビットコミュニケーションズ(株)《西向島RCのR4年9月度分》の調整後排出係数0.528および新電力会社(株)グリーンパワー大東《西向島RCのR4年10月以降および北港RCの全期間》の調整後排出係数0.201を用いています。」

基準年度欄の数値は、上段：排出量、下段：原単位、実績値欄の数値は、上段：排出量、中段：実績原単位、下段：原単位目標値に対する達成率です。

項目 単位	R3年度実績値 (達成率%)	R4年度目標値	R4年度実績値 (達成率%)	評価
産廃部門売上高 (百万円)	1,184		1,538	原単位は売上高百万円あたりの数値になっています。売上高は前期比30%の増加となりました。
CO ₂ 排出量 kg-CO ₂	1,708,413		1,528,614	○ 目標を達成しました
kg-CO ₂ / 産廃売上	1,443	1,466	994	
原単位改善率			32.2%	
電力の使用量 kWh	545,275		596,735	○ 目標を達成しました 産廃の処理量は前年比増加し、電力使用量も増加しましたが、売上高が大幅に増加したため、原単位は減少し目標を達成しました。
kWh / 産廃売上	460	490	388	
原単位改善率			20.8%	
軽油の使用量 L	380,762		517,445	○ 目標を達成しました 軽油の使用量は、GTL燃料が高騰し、10月以降は全量軽油を使用したため、前期比大幅に増加しましたが、原単位の目標値を達成することができました。
L / 産廃売上	321	345	336	
原単位改善率			2.5%	
GTL燃料の使用量 L	218,050		11,089	○ 目標を達成しました GTL燃料の使用量は、9月だけの使用になりましたので、前期比95%減となりました。GTLの価格が元に戻れば使用を再開する予定です。
L / 産廃売上	184	255	7	
原単位改善率			97.2%	
収集運搬車燃費 km/L	2.33	2.09	2.20	○ 目標を達成しました 燃費は、解体工事現場がリサイクルセンターに比較的近いところであったことから、走行距離が前期比20%減となり、前期比で大きく悪化しましたが、目標値はクリアすることができました。
水使用量 m ³	1,367		1,384	○ 目標を達成しました 運搬車両や重機の洗浄水が多くなっていますが、前年比2%の減少となり、売上増の効果もあり原単位は大きく減少し目標をクリアしました。今後も節水を心がけるよう再徹底を行います。
m ³ / 産廃売上	1.154	1.225	0.900	
原単位改善率			26.6%	
再生路盤材リサイクル率 %	100%	100%	100%	○ 目標を達成しました。 当社施工の解体工事現場からのコンクリートがらを中心に再生処理を行っていることから、量の多寡ではなくリサイクル率を目標としています。 基本的に再生品はすべてリサイクルしています。

※ 原単位改善率は目標数値に対し、達成できた割合で表示しています。

【解体工事関係】

「電力に係る二酸化炭素の排出係数は、令和3年度の調整後排出係数を用いました。本社はエフビットコミュニケーションズの0.528、東京支店は東京電力の0.456を用いています。」

基準年度欄の数値は、上段：排出量、下段：原単位、実績値欄の数値は、上段：排出量、中段：実績原単位、下段：原単位目標値に対する達成率です。

項目 単位	R3年度実績値	R4年度目標値	R4年度実績値 (達成率%)	評価
解体工事売上高	3,787,188		4,097,173	原単位は売上高百万円あたりの数値です。
CO ₂ 排出量 kg-CO ₂	117,671		112,347	○ 目標を達成しました。
kg-CO ₂ / 解体売上	31.1	30.5	27.4	
原単位改善率			(+10.1%)	
電力の使用量 kWh	0		51,471	○ 目標を達成しました 電力の使用量は、東京支店分が加わりましたが、建設売り上げが伸びたため、目標原単位をクリアしました。
L / 解体売上	0.0	14.7	12.6	
原単位改善率			(+14.5%)	
ガソリン使用量	39,774		36,831	○ 目標を達成しました 解体工事現場が比較的本社に近かったため、ガソリンの消費量が減少し、目標原単位をクリアしました。
L / 解体売上	10.5	9.8	9.0	
原単位改善率			(+8.3%)	
自社工事売上高	1,210		1,238	原単位は売上高百万円あたりの数値です。
CO ₂ 排出量 kg-CO ₂	996,807		1,302,626	× 目標未達成となりました。
kg-CO ₂ / 自社工事高	824	759	1,053	
原単位改善率			(▲38.8%)	
軽油の使用量 L	341,329		504,894	× 目標未達成となりました。 前期に引き続き、頑丈なコンクリート造りの建物解体に重機の燃料が高んだため、目標原単位をオーバーしました。 建物の構造に大きく依存するため、目標原単位を設定することが適切なのか、引き続き検討いたします。
L / 自社工事高	282	294	408	
原単位改善率			(▲38.8%)	
定性的評価 解体時に発生する環境影響を回避ないし削減するための手順書に基づいて評価します	<p>リサイクルセンターから良好であるとの評価を引き続きいただいています。</p> <p>①住民からの苦情はありませんでした。</p> <p>②元請からの評点は最良点を継続していただきました。</p> <p>③省燃費運転はよくできました。</p>		<p>リサイクルセンターから良好であるとの評価を引き続きいただいています。</p> <p>①住民からの苦情はありませんでした。</p> <p>②元請からの評点は最良点を継続していただきました。</p> <p>③省燃費運転はよくできました。</p>	<p>解体工事では、常に近隣住民や元請会社、発注者の目が光っており、それだけに社内的にも厳しく指導しています。</p> <p>社長から、「解体工事業は世間からは3K職場のように見られがちである。当社がそのような見方を変えさせる見本となる企業となるように、礼節と謙虚を常に持って業務にあたるように。」と厳しく指導しています。</p> <p>施工管理者制度で社員のステータスが上がり、自社工事はもちろんですが、外注工事についても、協力業者に対して厳しく指導を行っていますので、関係者から引き続き高い評価を得ています。</p> <p>本年度、建災防から表彰状を1件いただきました。無事故・無災害で工事を完了したことに関してですが、工事現場周辺的环境管理もよくできたことが含まれています。</p> <p>今後もこの状況を継続できるように身を引き締めて業務に臨んでまいります。</p>

※ 電気および水道の使用については、元請会社一括管理になっているため当社分を把握できていません。

※ 上記の表において自社解体売上としているものは自社で解体工事を直接行った工事のうち、本年度工事施工分を計算して算出しています。

※ 廃材の搬出量については、廃棄物関係で把握しています。

8. 主要な環境活動計画の内容と取組結果の評価

(令和4年9月～令和5年8月)

環境目標	取組み項目	評価(○：良好 △：不十分 ×：未実施)	
CO ₂ の削減	-	-	
電力使用量の削減	取組み事項の説明(教育)	○	本年度も9月、1月、4月に全社員を対象に取組み状況および今後の進め方について教育を実施しました。
	不要時の消灯	○	不要な場所や休憩時の消灯がほぼ徹底できました。
	運転停止時の電源オフ	○	昼休憩時や終業後は電源オフが徹底してきました。
	エアコン温度管理の徹底	○	エアコンの使用を控えることができました。
	エアコン点検記録	○	日常目視点検及び月次簡易点検を行いました。
	削減目標の達成結果	○	削減目標を達成しました。今後も省電力推進手順書に基づいてこまめな活動を推進して更なる削減を目指します。
燃料使用量の削減	取組み事項の説明(教育)	○	本年度も9月、1月、4月に全社員を対象に取組み状況および今後の進め方について教育を実施しました。
	車両の点検整備の徹底	○	月次点検、日常点検を徹底して実施しました。
	車両の走行距離の低減	○	収集運搬経路をあらかじめ調査し、無駄な走行をしないようにしました。
	エコドライブ・省燃費運転の徹底	○	エコドライブ。省燃費運転の教育を実施し、運転手に実践を徹底しました。また燃費データを車両ごとにとり、燃費の改善を継続して進めています。
	削減目標の達成結果	○	軽油およびGTL燃料の使用量は前年比10%増加しました。売上高は13%の増加でしたので、燃料原単位は3%の改善となりました。収集運搬のダンプ車の燃費は解体現場がリサイクルセンターに近かったため、走行距離が20%減少したことから、R3年度2.33km/Lから今年度2.20km/Lと大きく悪化しましたが、削減目標(2.08km/L)は達成することができました。
廃棄物排出量の削減	取組み事項の説明(教育)	○	本年度も9月、1月、4月に全社員を対象に取組み状況および今後の進め方について教育を実施しました。
	廃棄物の分別の徹底	○	産業廃棄物の分別は、重機を利用し粗分けした後、手選別によりさらに分別精度を上げており、ゼネコン業者からも高い評価を受けています。一般ごみの減量を図るため、不要になった用紙の裏紙の利用、社内便の封筒の再利用などとともに、昼食は給食業者の弁当を引き続き利用し、空容器の発生を抑制しています。
	リサイクル用途の開拓	○	新たな用途開拓を進めました。
用水使用量の削減	洗車時の節水の徹底	○	従来以上に節水を指示徹底しました。洗車用水にも雨水を積極的に使用するよう徹底していきます。
	雨水の再利用	○	北港RCおよび西向島RCでは雨水を大型地下槽に貯めて、破碎時の散水および収集運搬車のタイヤ洗浄に使用しています。
	漏水の点検	○	日常点検で確認しました。
	削減目標の達成結果	○	上水使用量は前期比16%増加となり、原単位も13%悪化しましたが、目標原単位に対しては93%でクリアしています。
グリーン購入の拡大	環境ラベル認定等製品の優先的購入	○	購入品目の見直しを徹底した結果、グリーン比率が前年度96.4%から96.2%とわずかに下回りました(目標値は90%以上)。今後も現状並みの比率を目指して購入品の調査検討を継続していきます。
再生路盤材リサイクル率99%以上確保	顧客新規開拓	○	再生路盤材の販売量(有償販売分)は前年度とほぼ同量でした。引き続き有償販売先の開拓に努めてまいります。
本来業務の環境活動の推進	関係企業とのコミュニケーション推進	○	業界団体の役員に就任し諸活動を行うとともに、元請け会社や協力会社との諸会合に積極的に参加しました。建災防から安全競争表彰を受けました。
	地域活動への積極的参加	○	本社、リサイクルセンターなど会社周辺道路の清掃を実施するとともに、また、本社およびリサイクルセンターの入口付近にAEDを設置し、社外の方も利用できるようにしています。また、グローバルに展開されているSDGsに関し、本社玄関にSDGsロゴを貼り付けて、当社も社会基盤の整備等貢献していく活動の継続・拡大を公言しています。

9. 環境・安全への取組み



環境・安全協議会（昇友会）

毎月1回、北港RC会議室にて環境・安全協議会を行っています。本年度は、2月以降、開催を実施しています。また、開催出来なかった9月、12月、1月は、書面を配布し、必要事項の連絡徹底を図りました。



安全パトロール

毎月1回、営業部・解体事業部・昇友会会員2名による各現場の安全パトロールを行っています。現場を巡回した後、各業種の職長に指摘事項等を伝達しています。



ダンプ会議

毎月1回、自社・庸車のダンプ運転手・産業廃棄物処理施設責任者が集合し、北港RCの会議室にて兵庫県警やトラック協会から資料をもとにエコドライブや安全講習を行っています。



安全大会

年1回、協力業者・関係者・社員合わせて約120名程度で安全標語や現場の安全表彰を行います。また、本年度は組織活性化コンサルタントをお招きし、ご講演をいただきました。

10. 主な環境関連法令への違反、訴訟等の有無

適用される法令	適用される事項（施設・物質・事業活動等）	遵守確認
廃棄物処理法	産業廃棄物の収集・運搬、処分にかかる許可手続き、保管基準、処理基準、委託基準の遵守 一般廃棄物は別途適正処分	○
自動車NOx・PM法	排ガス基準の遵守	○
オフロード法	重機入れ替え時に排ガス基準適合車の購入	○
大阪府生活環境の保全等に関する条例	大気汚染防止法の特定粉塵排出等作業届出が必要な工事で「石綿の使用面積が50㎡以上」の場合石綿濃度の測定計画の届出義務あり。また、「石綿含有成形板」の場合は、使用面積が1,000㎡以上の場合「石綿排出等作業」の届出義務あり。	○
兵庫県環境の保全と創造に関する条例	流入規制の遵守 大阪府と同様であるが、床面積が1,000㎡以上あるいは、「石綿若しくは石綿をその重量の0.1%を超えて含有する建築材料を使用し、床面積が80㎡以上」の場合条例に基づく届け出必要。	○
下水道法	排水基準の遵守	○
大気汚染防止法	粉じん発生基準の遵守 アスベスト有無についての事前調査義務化への対応 特定粉じん排出等作業届出（吹付け石綿、石綿を含有する断熱材・保温材・耐火被覆材がある場合）	○
土壌汚染対策法	①3,000㎡以上の土地の形質変更を予定している工事 ②有害物質を取り扱う工場・事業場の解体工事 ③法及び条例に基づく区域指定等を受けた土地の工事 汚染土壌の搬出計画届出、運搬基準の遵守	○
建設リサイクル法	建設廃棄物のリサイクル計画、工事届出義務の遵守 特定建設資材廃棄物（コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材）は再資源化の義務あり	○
労働安全衛生法	アスベスト等を使用した建築物の解体工事基準の遵守 令和5年10月以降は建築物石綿含有建材調査者が必要になる。 2m以上の高所作業得時の墜落制止用器具「フルハーネス」の着用遵守	○
石綿障害予防規則	アスベスト等を使用した建築物の解体工事基準の遵守	○
騒音規制法	騒音に係る特定建設作業（法、条例に基づく届け出）基準の遵守	○
振動規制法	振動に係る特定建設作業（法、条例に基づく届け出）基準の遵守	○
PCB特別措置法	PCB含有の恐れがある機器等の保管処分の規制の遵守	○
フロン排出抑制法	フロンを使用している業務用エアコンや冷凍冷蔵機器の有無確認・点検等の規制遵守、対象機器の定期点検実施と記録の保存	○
建設業法	解体工事業を含め各種業種の基準の遵守 令和2年10月1日より適用の「社会保険の加入に関する下請指導ガイドライン」の遵守	○

環境関連法規への違反・訴訟はありません。なお、関係当局などからの違反等の指摘は過去3年間ありません。

9. 有資格者一覧

資格名		資格名	
一級建築士	1名	二級建築士	2名
一級建築施工管理技士	5名	二級建築施工管理技士	2名
一級土木施工管理技士	4名	二級土木施工管理技士	2名
一級建設機械施工管理技士	3名	第二種電気工事士	1名
解体工事施工技士	21名	危険物取扱者免状	2名
宅地建物取引主任者	2名	衛生管理者	2名
無線従事者免許第三級	2名	無線従事者免許第四級	6名
監理技術者	16名	一級とび技能士	1名
地山の掘削作業主任者	18名	土止め支保工作業主任者	18名
足場の組立て等作業主任者	14名	コンクリート工作物解体等作業主任者	14名
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	15名	石綿作業主任者	13名
車両系建設機械運転（整地、解体等）	53名	フォークリフト1t以上	14名
玉掛け1t以上	25名	一般建築物石綿含有建材調査者	2名
ダイオキシン類業務に係る作業指揮者	6名	特別管理産業廃棄物管理責任者	7名
破砕・リサイクル施設技術管理者	2名	土壌環境保全士	1名
廃棄物管理士	4名	一般主任計量者	1名
運行管理者	5名	二級自動車整備士	1名
安全運転管理者	1名	労働安全コンサルタント	1名

資格保有者合計 548名 記載以外の資格含む

2023年（令和5年）8月現在

着色は資格者が増加したもの
 着色は資格者が減少したもの
 無着色は前年度と同じものを示しています。

12. 総括（代表者による全体の見直し・指示）

R5.11.8

令和4年度は売上高が前年比13%増の56億円強となりました。解体工事は8%の増加、処分業は30%の大幅増加になりました。北港リサイクルセンターは近隣の解体工事現場が多かったことから処分量が伸びるとともに、ALCのリサイクル製品事業者登録ができたことや、残土処理量の大幅増などがその要因として挙げられます。

- ① 全社の軽油+GTL燃料の使用量は前期比24%減となりました。売上高は14%減でしたので、原単位換算では前期比11%の改善となりました。ガソリンは、使用量が前期比10%増加したこともあり、原単位換算では前期比29%の悪化となりました。業務量が増加して忙しい中ですが、当社社員および協力会社社員は、SDGsの目標12と13の達成のために、引き続きエコドライブを率先実行して、燃料の節約と二酸化炭素排出削減に貢献し、地域住民から感謝されるようにいたします。
- ② 処分業では、工事現場のコンクリートがらの発生量が昨年度比28%減少しことから、収集運搬量が同28%の減、処分量は同20%の減少となりました。
また、収集運搬車の燃費は前期実績値2.19km/L（目標値2.06km/L）に対し、実績2.33km/Lと大幅に改善できました。これは、運転者の省燃費運転意識の向上と11 t 積み運搬車への老朽更新を昨年度末までに終え、燃費性能の向上に通期で寄与したためです。これで良しとするのではなく、今後も省燃費運転に工夫を加え、燃料使用効率をさらに向上してまいります。
- ③ 解体工事では、当社の工事实績が評価され、引き続いて大型工事案件の受注が増加しています。解体工事関係の重機の更新も引き続き進めています。GLP大阪解体工事の安全管理実績に対し、来期建災防の安全競争表彰を受ける予定です。

令和4年度も新型コロナの影響がありましたが、解体工事案件の引き合いは引き続き順調に推移しています。経費の節減を徹底しながらも、社内外では常に「絆」を大切にしてお応じていきます。こういう時期だからこそ、安全管理にはよりいっそう気を配り、安全操業を継続してまいります。

次年度において環境経営方針、環境経営目標および実施体制の変更はありません。

1 3 . 次年度での取り組み



- (1) 当社はSDGsの課題解決を重要な経営課題と捉え、事業活動・企業活動を通じて、国際社会が追求する社会課題の解決に貢献することで企業価値の向上と持続的な社会の実現に取り組みます。



- (2) 再生路盤材の販売は、運搬船の活用が可能になったので、大量に安価に運搬することができるようになりました。遠方の顧客にも良質な再生路盤材を提供するべく顧客の開拓をしております。
また、建設発生土を利用し採石場開発跡地の緑化事業に良質な土を提供していきます。



- (3) 上水の使用量は事業の拡大に伴い大幅に増加していますので、次年度の原単位目標値は本年度と同じ「0.248m³/全社売上高百万円」と設定して管理いたします。



- (4) グリーン購入比率は96%で目標を達成しました。今後はこの水準を維持しながら、グリーン品を見逃していないか精査の上発注するように心がけてまいります。



- (5) 運搬車両の燃費の目標値を、令和5年度は2.11km/Lとして燃費向上に取り組めます。
建設機械に用いる燃料は、軽油代替品であるGTL（Gas to Liquid）燃料は価格高騰の影響で取りやめていますが、価格が落ち着けば使用を再開し、環境負荷の低減を図ってまいります。また、解体工事現場でもGTL燃料が使用できないか検討を進めてまいります。



- (6) 解体工事関係では、大型物件、中小物件の別なくあらゆる物件に真剣に取り組んでまいります。そして、各ゼネコンからの高評価・表彰をバネにして、今後も引続き受注の拡大を図るとともに、原単位の改善を進めます。



- (7) 社員教育を充実するとともに、資格取得を奨励していきます。
安全・環境・SDGsへの貢献に関して、社員表彰・協力会社表彰をひきつづき安全大会の中で実施します。



- (8) 当社では、解体工事とそれに伴って発生する産業廃棄物の処理、建設残土の処理までワンストップで行うことができます。この特徴を生かして、顧客、社員、協力会社一丸となってサービスを提供していきます。

これらの目標以外にも従来から取り組んでいる次の項目も引き続き改善・向上に取り組めます。

